

令和3（2021）年さけます来遊状況（第3報:10/31 現在）

4 サケ年齢組成と体サイズ

国立研究開発法人水産研究・教育機構
水産資源研究所 さけます部門 資源増殖部

- 北海道の10月末時点での年齢別来遊数は、4年魚（2017年級）は前年を下回るが、5年魚（2016年級）は前年を上回る
- 北海道の太平洋側では5年魚は前年並みだが、4年魚は前年を下回る。北海道の日本海側では4年魚は前年を下回るが、5年魚は前年を大きく上回る
- 北海道のサケの平均重量は3.19kgで前年と同等

・サケの年齢組成（北海道）

北海道の河川に回帰したサケの年齢査定途中経過をもとに10月末時点における年齢別来遊数を推定したところ、4年魚（2017年級）が全体の58%と最も多く、次に5年魚（2016年級）が27%を占めました。4年魚は前年同期の78%と前年を下回っていますが、5年魚は前年同期の279%と大きく上回っています（図1）。

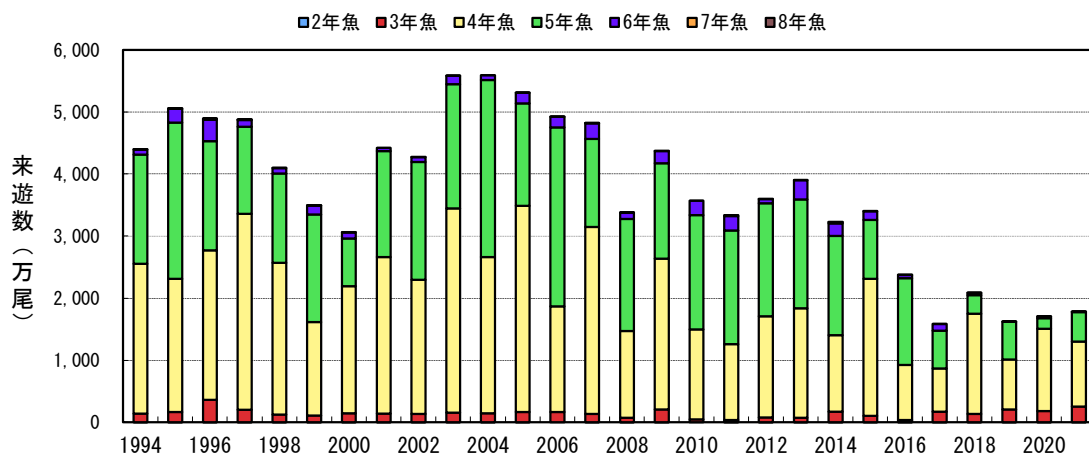


図1. 10月末時点のサケ年齢別来遊数（北海道）.

年級群（生まれ年）ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2017年級の来遊数（2～4年魚の来遊数）は、1992年級以降の平均の60%となっています。また、5年魚である2016年級の来遊数（2～5年魚の来遊数）は、1992年級以降の平均の57%となっています（図2）。

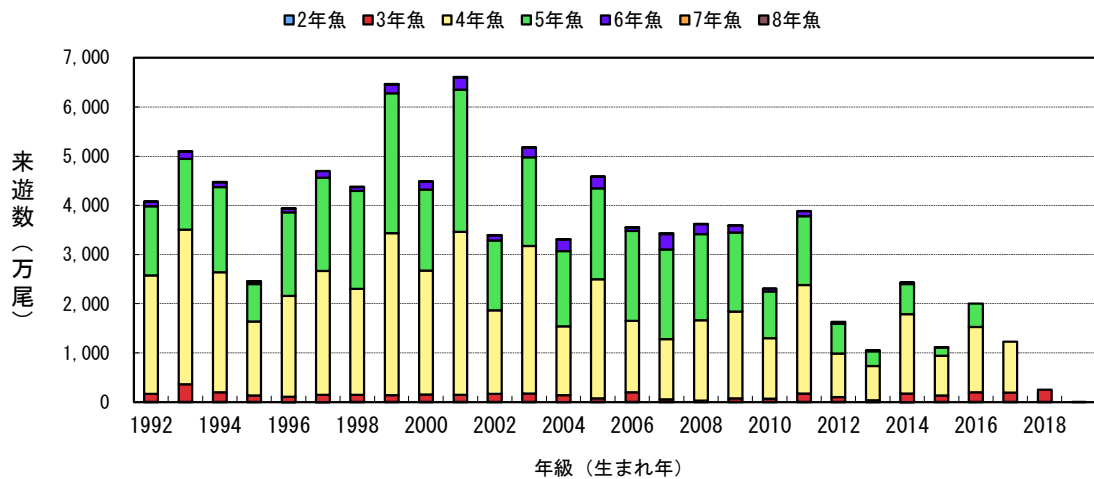


図2. 10月末時点のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（北海道）.

地域別にみると、太平洋側（根室海区～えりも以西海区）では、4年魚の来遊数は前年同期の71%、1994年以降の平均の20%、5年魚の来遊数は前年同期の97%、1994年以降の平均の9%となっており、いずれも平年を下回っています（図3）。

日本海側（オホーツク海区および日本海区）では、4年魚の来遊数は前年同期の81%、1994年以降の平均の90%となっています。5年魚は前年同期の425%、1994年以降の平均の53%となっており、1994年以降で一番少なかった前年度を大きく上回っています（図4）。

なお、サケの年齢組成は来遊時期の初めの頃には高齢魚（5年魚）の割合が高く、シーズンが進むにつれて若齢魚（3年魚や4年魚）の割合が高くなる傾向があります。

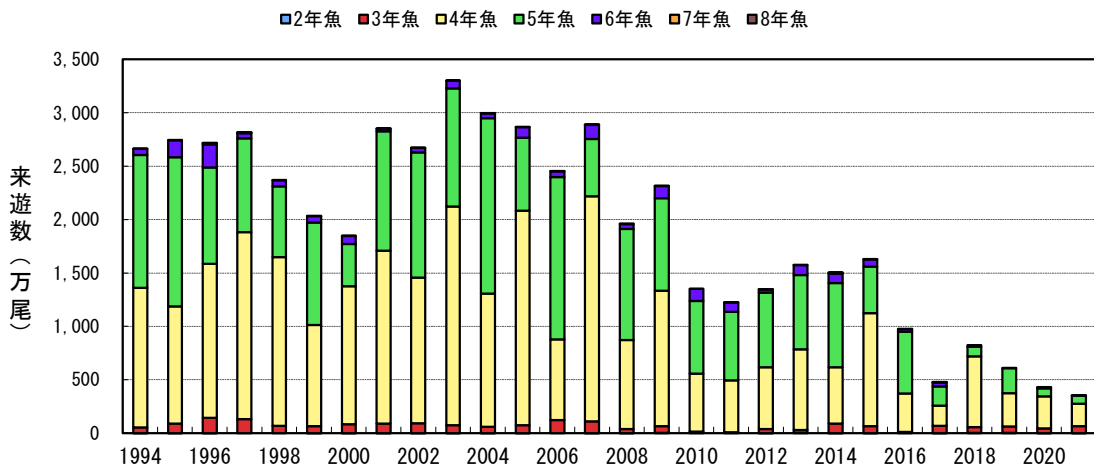


図3. 10月末時点のサケ年齢別来遊数（北海道太平洋）.

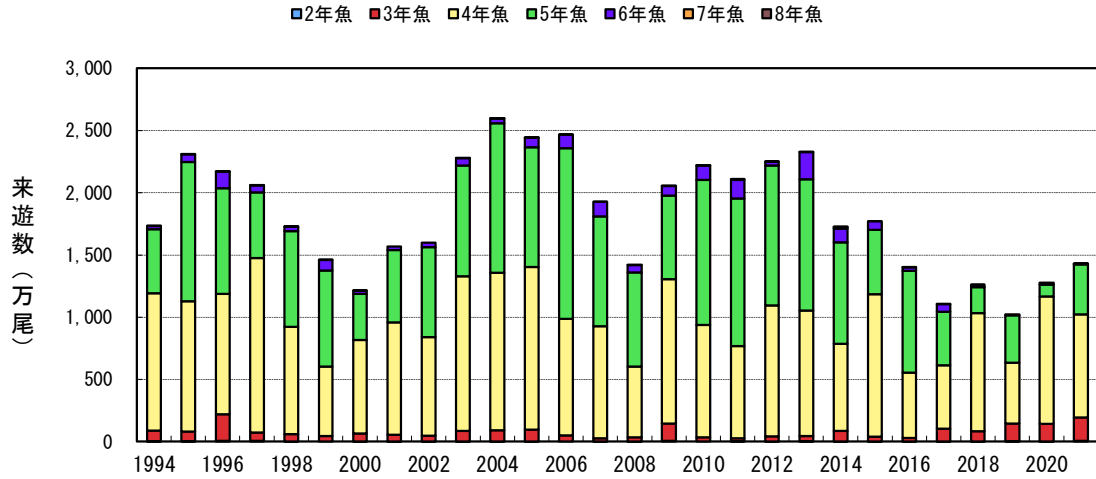


図4. 10月末時点のサケ年齢別来遊数（北海道日本海）.

・サケの体サイズ

北海道における10月末現在のサケ1尾当たりの平均重量(漁獲数と漁獲重量から算出)は3.19kgであり、前年同期の平均体重3.15kgとほぼ同等となっています(図5)。

また、北海道の主要河川に10月末までに回帰したサケ4年魚の平均尾叉長は66.4cmであり、前年同期の平均尾叉長66.6cmとほぼ同等となっています(図6)。

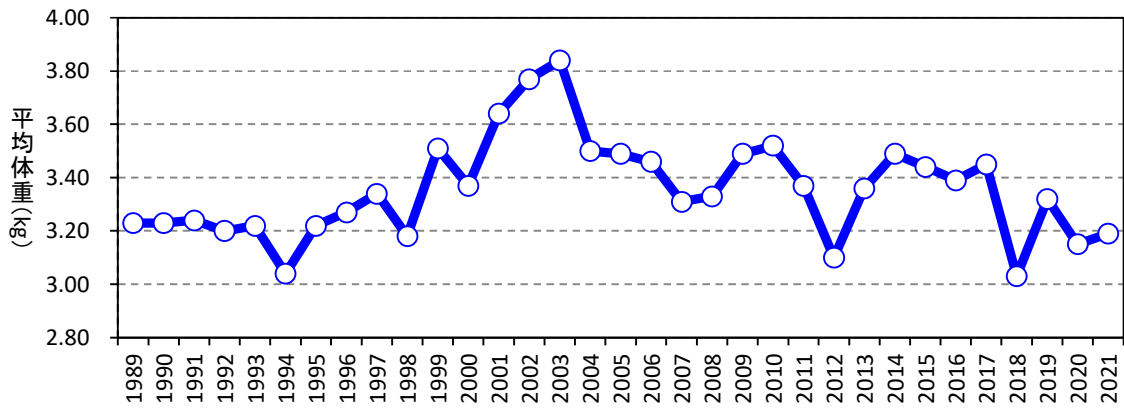


図5. 10月末時点のサケ平均重量（北海道）.

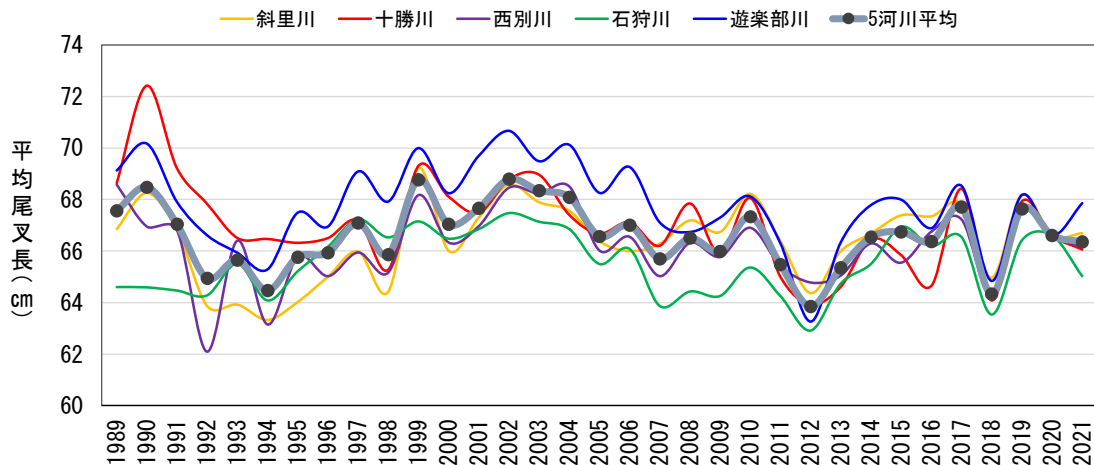


図6. 10月末時点の北海道の主要河川におけるサケ4年魚の平均尾叉長.